

母性愛の喪失

母と子。母が子を思う気持は海よりも深いと古くから言い伝えられてきた。しかしながら、この頃母親が子供を殺したり、放置したり、虐待すると言った事件があいついで起っている。これらの事件の背後には色々な複雑な理由があるのかも知れない。だが、母性愛が生理的なものである以上、やはり何か生理的な原因があるのではなからうか。すなわち、現在では母乳で育てる母親が非常に少なくなった。その結果、母と子の肌と肌の触れ合いはうすれていないだろうか。

医学の進歩は数多くの未熟児の生命を救った。また帝王切開・無痛分娩などで簡単に生めるようになった。それと同時に、*「生みの苦しみ」*を忘れ *「腹を痛めた子への愛」* が忘れられてはいないだろうか。墮胎の経験は母親の心にある種のかげりを与えはしないだろうか。人間は『愛』なくして生きることはできない。街に汨濫する love (愛)。*「母性愛の喪失」* それは全くの幻想だろうか。

二人町長

—青森—

青森県西津軽郡鯉ヶ沢町は、人口1万8千人余りの静かな海ぞいの町。近海にたよる漁業はさびれ、農業は減反のあおりでおもわしくなく、これといった産業のないこの町は3千人の出稼ぎ労働者を送り出している。

ところが最近、にわかにかこの町があわただしくなりだした。ことのおこりは選挙管理委員長が独断で、町長選挙で小差で当選した中村さんの無効票を摘発、負けた鈴木さんの逆転当選を決めてしまったことに初まる。とどのつまり、中村さんにも鈴木さんにも当選証書がわたり、二人の町長が生まれることとなった。

こんな事態を収拾しようと町議会は緊急協議会を開会。ところが両派にわかれてここでも混乱。

いよいよ5月10日、両町長初登庁の日。

2千人のヤジ馬でふくれあがった役場前に中村さんは堂々登庁。鈴木さんはついに姿を見せず「今後は裁判で戦う」と声明。

「こんなことは鯉ヶ沢町ばかりでなく青森県のはじだ。町民の私達がはずかしい」とは住民の声。